

ちばの地域福祉

「生まれ変わる」中核地域生活支援センター

中核地域生活支援センター連絡協議会
会長 井本 義孝

平成16年に「千葉県地域福祉支援計画」が社会福祉法に基づき策定された。この年に官民協働で熱い議論、討議の結果、10月に千葉県中核地域生活支援センター（以下、中核センター）が誕生した。365日休みなく、24時間いつでも、誰でも、ご相談して下さい。との千葉方式は、エポックメイキングなものであった。改めて言うまでもないことであるが、「誰もが、ありのままに、その人らしく地域で暮らすことが出来る」ように、その働きは、福祉の総合相談支援機能、権利擁護機能、そして地域総合コーディネート機能を3本の柱とし、理不尽な扱いで非人間的な生活をする県民がなくなるよう県下14圏域（当初）に1ヶ所づつ配置されたものであった。また、準じる内容、機能を持った柏市の「あいねっと」、船橋市の「ふらっと船橋」や「さーくる」も現在「中核地域生活支援センター連絡協議会」に加わり、県下54市町村にて社会的に弱い人々の立場に立って支援活動が続けられていることは、ご同慶の至りである。

昨年7月20日の第1回中核センター大会に於ける基調講演で厚生労働省事務次官の村木さんは「生活困窮に対する支援の課題とこれから」と題し、少子超高齢社会にあって生活困窮や社会的孤立を生み出す要因とは何か、私たちはどう活動すべきか、多大のご示唆を下された。12月6日には、国会で「生活困窮者自立支援法」が成立し、生活保護受給者世帯220万余の存在がニュースとなった。言うまでもなく、「生活保護」は労働手段を失った人々にとっては最後の命綱であろう。法律が弱者切捨てでなく、本当に自立への道を備えているならば、相談事業の先駆者的立場にある「連協加盟の中核センター諸団体」は、率先してこれと取組むべきではないか。とは申せ、県下54市町村には夫々固有の事情があり、一概に「中核センター」に委託とは出来ぬ場合が考えられる。ともあれ法案内容によれば、自立支援は貧困からの脱却のみならず、貧困の連鎖を防ぎ、可能な限り貧困からの向上を目的とするならば、中核センターが今まで実践してきたノウハウがきわめて有効と言えよう。平成27年度施行実施の本相談事業を「中核センター」が受託することは、「中核センター本来の役割が鮮明」となり、これを包括することにより、千葉県の津々浦々に新しい形の「総合相談事業」としての福祉が定着することになり得る。「中核センター」は、全力を挙げて地域の市社協をはじめ、社会資源と提携することも視野に入れ取組むことも肝要。同時にスタッフ体制の強化も必須である。

創設11年目の「中核」は「生まれ変わり」時代のニーズに即応していかなければならない。

中核地域生活支援センターの地域づくり

海匝ネットワーク 所長 吉野智

海匝ネットワークは銚子市、旭市、匝瑳市の3市を対象とする中核地域生活支援センターです。人口は約17万6千人です。

中核地域生活支援センターとして「福祉と暮らしの何でも相談」を行っておりますが、さまざまな制度、社会資源をコーディネートしても「満たされないニーズ」は必ずあります。「無いから仕方ない」では10年経っても課題は変わりません。つまり相談支援に並行して「地域づくり」をしていくことも私たちの使命なのです。

海匝ネットワークは3市のさまざまな公的な協議会などに参加しております。例えば障害分野では「地域自立支援協議会」、子どもの分野では「要保護児童対策地域協議会」、高齢者の分野では「地域ケア会議」などなど。会議が多くて大変ですが、総合相談を行っている立場だからこそ私たちの街の良いところ、課題となっているところ、いろいろな側面を視野広く話題提起し、必要な提言を行うことができます。制度は縦割りなものが多いのですが、課題は共通するものもありますし、広い視野で考えた方が効果的な場合もあります。

基本的には公的な会議の中で前述したような役割を担っていきますが、それでは、充足できない課題もあります。例えば児童虐待とDVは同世帯で起こることがありますので、その実践的な協議の場として「DV・児童虐待勉強会」、地域医療と地域福祉の問題を合わせて協議する場として「東総医療と福祉のまちづくり研究会」などを海匝ネットワークが主催しています。海匝ネットワークが主催する際のポイントは決して独りよがりにならない、あるいは一方的な会議やイベントにしないということです。あくまで地域で同じ課題を感じている仲間と共に、一緒に場づくりをしてもらうようにしています。こうすることでより実務的な協議となり、そこから具体的なアクションや連携に繋がっているのです。

どんなに制度や仕組みが変わっても、地域で暮らす顔ぶれや、それぞれの役割はそんなに大きくは変わらないはずです。だからこそ、海匝ネットワークは地域に広く根をつなぎながら、ひとつひとつ地域の力を着実に積み上げていくところに力を注いでいくことができると関係各所と切磋琢磨しています。私たちの地域ですから、誰もが住みよい、みんなでわくわくウキウキするような地域を創っていきたいと思っています。

海匝圏域 中核地域生活支援センター 海匝ネットワーク

【対象地域】銚子市・旭市・匝瑳市

【連絡先】〒289-2511

TEL : 0479-60-2578

fax : 0479-60-2579



ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

社会福祉法人 博和会

わたぼうし施設長 芳賀沼幸枝さんにお話を伺いました。

障がい福祉サービス事業所 わたぼうし

障がいのある人が、その人らしく、地域で暮らすことが出来るように障がいのある人の自立と社会参加の促進に寄与することを目的として事業所を立ち上げました。



平成20年 7月1日 短期入所事業生活介護事業居宅介護事業所の指定を受け開所。

平成20年 8月1日 相談支援事業の指定を受ける。

平成21年11月1日 児童デイサービス事業の指定を受ける。

児童養護施設 びっき

社会福祉法人博和会が平成25年10月1日児童養護施設びっきを開所致しました。千葉県内の児童養護施設としては19番目になります。平成26年4月1日現在千葉県内の児童養護施設は20箇所になります。

「びっき」、ちょっと耳慣れない名前だと思います。「びっき」とは「かえる（蛙）」のことです。東北地方では「かえる」のことを「びっき」と呼びます。入所児童達もいずれは社会に巣立っていかねばならない時期が訪れます。そんな時期、帰って来る家・場所があると思ってもらいたい。

かえる⇔びっき、そんな拠り所になってほしい。そんな思いで「びっき」という名前をつけました。

子ども達を取り巻く環境には様々な問題が沢山あります。そんな中でも子供たちは一生懸命に地域・学校に溶け込んで頑張っています。

家庭的養護と言われていますが、様々な問題点も多く残されています。しかし子どもたちと暮らす楽しさを糧に乗り越え、見守りながら職員・子ども達と一緒に成長していけたらいいなと思っています。





ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

第6回 世界自閉症啓発デーin ちば『みんな大切な仲間です』

【内容】 毎年4月2日は国連が定めた世界時自閉症啓発デーです。この日を中心に世界及び日本各地で自閉症に関する啓発イベントが開催されます。千葉県では、4月5日に世界自閉症啓発デーin ちばが開催されます。皆様ぜひご参加ください。

【プログラム】 絵本の朗読

キャラバン隊いちょう公演『自閉症ってなあに！』

(出演) 千葉県立市原特別支援学校 PTA キャラバン隊

ミニコンサート

(ほか) 作品展・DVD 上映・自閉症支援グッズ紹介コーナー・相談コーナー・パネル展示なども行っています

【日時】 平成25年4月5日(土) 11:00～17:00

【会場】 Qiball (きぼーる) 1階アトリウム (千葉市中央区中央4-5-1)

【問合せ】 千葉県発達障害者支援センターCAS (千葉市中央区亥鼻2-9-3)

TEL: 043-227-8557

※ 4月2日～4月8日(発達障害啓発週間) 18時～21時千葉ポートタワーがブルーにライトアップされます。

第25回心のふれあいフェスティバル

～いいね!! あなたらしさ わたしらしさ!!～

【内容】 心のふれあいフェスティバルは精神障害のある方と地域の方々との交流を深めるために行われるイベントです。当日は様々なプログラムが用意されているので、皆さんぜひご参加ください!

【会場・プログラム】 千葉市中央公園 (青空パフォーマンス・作品展・バザー)

千葉市文化センター (演芸大会・心のよろず相談)

※悪天候の場合、作品展・バザーは文化センターに変更、青空パフォーマンスは中止となります。

【日時】 平成26年5月8日(木) 10:25～14:30

【参加費】 無料

【問合せ】 心のふれあいフェスティバル事務局

(〒260-0801 千葉市中央区仁戸名町666-2

千葉県精神保健福祉センター内)

TEL: 043-263-3891 Fax: 043-265-3963

発行元: 千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局: さんぷエリアネット (山武圏域) 山武市成東189-3

TEL: 0475-53-5208

FAX: 0475-80-2808

編集: いちはら福祉ネット (市原圏域) 市原市東国分寺台3-10-15

TEL: 0436-23-5300

FAX: 0436-23-5225

※内容についてのお問い合わせは、いちはら福祉ネット(担当: 高地)までお願いします。